

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 1. 自らの生き方を創り、たくましく行動することができる。(勇)
2. 自ら学び、自ら考えることができる。(知)
3. 豊かな心で互いに高め合い、生活できる。(仁)
4. 地域社会にかかわり、貢献することができる。(公)
5. 郷土を愛し、日本の文化や異文化への関心を高める。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

「問題発見・解決能力」
「心身ともにたくましく生きる力」
「自分づくりに関する力」

具体化した資質・能力

問題を認識する能力 目標を定義・設定する能力
自己肯定感を高く持つ 多様性を尊重する態度

中期取組目標

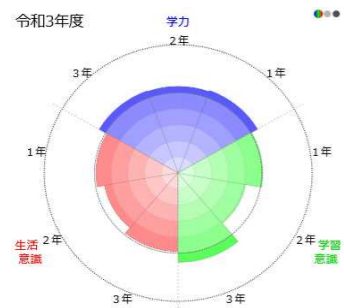
○教職員相互の尊重と信頼の人間関係を基調に、家庭・地域・関係諸機関等、社会との連携を強化しつつ、全教職員の協働のもと教育活動の充実を図り、「やさしさ」「活力」「魅力」にあふれる学校の創造を目指します。
・学ぶ楽しさを実感し、主体的に学び、考える態度を育成して、課題解決ができる力を育てます。
・生命の大切さを自覚し、差別や偏見のない、人も自分も大切にしたい思いのある心を育てていきます。
・学級や学年、部活動等、様々な集団で、互いに尊重し合い高め合う、望ましい人間関係を築いていく力を育てます。
・学習と部活動等との両立を図り、目標に向かって最後まであきらめずに取り組む態度を養います。
・地域等の人材活用や、地域の諸活動への積極的参加と連携により、社会に貢献できる生徒を育てていきます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善), 具体的取組 (育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善を...)

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
全体的には、市の平均的学力より高い集団であり、学習意欲も高く学力層Aが*多く、学力層Dは市平均より低い結果となっている。



(2) これまでの学校の取組状況
日常的に相談しやすい環境づくりと積極的に質問する機会として教科相談の実施をしている。
学力層Dへの取組として、夏季休業中の学習相談や放課後を利用した学習指導を実施している。

今年度の目標

楽しく、わかる」授業を基本に、「生徒が自ら考える」授業を工夫・実践する。
・「わからないことをわかるように、できないことをできるようにする」成功体験を。
・他者との協力関係を築きながら、自分の能力を自分自身で伸ばし、学び続けていく力を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ◆学習課題を通して、自ら疑問をもち、他者と対話をしながら、その問いを解決していく言語活動を意図的に行う。
◆学習課題を通して考察したことをまとめ、解決に向けて他者と協働する学習を展開する。ICTの活用をする。
◆他者と関わって日常の事象を数学的に考察したり論理的に説明したりする数学的活動を積極的に展開する。
◆科学的に探究する学習活動の充実を図る。日常生活や社会との関連を重視する。
◆じっくり考え、高め合い、次につなげる確かな学びの姿をめざす。感じ取ったことなどを他者と共有し、比較したり共感したりしながら、自らの音楽的な感性を豊かにする。
◆生徒自身が、強く表したいことを主題にしたり、根拠を持ってよさや美しさを考えたりすることを重視した学習を展開する。
◆生徒が学習の見通しをもち、自らの課題を発見し、課題解決を図る取組を通して、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。
◆前例のない問題や身近で見過ごされてきた問題に対して、学んできたものや既存のものを駆使し、解決に向かうプロセスを考える。授業では課題を多面的に見る能力を養う。
◆学習を通じて自ら課題を発見し、言語の運用や文化的背景に関心をもって取り組むコミュニケーション活動を積極的に展開する。
◆体験的な活動のねらいを道徳科の時間と関連付け、主体的に考え、多面的・多角的に議論する道徳科の授業を展開する。
◆所属する様々な集団や生活上の課題を見だしその解決のために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりする活動を設定する。
◆実社会、実生活との関わりを重視し、自己肯定感を高める課題や探求の課程が繰り返され高まるよう学習を展開する。
○個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じて授業形態や学習集団 構成を工夫し、指導の実を図る

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育), 具体的取組 (①他者との関わりや豊かな体験を通して、自尊感情や自己肯定感を高め、他者に対する優しさを育む実践的な取組をする。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態
市学力・学習状況調査結果の中で「自分にはよいところがあると思いますか」の回答では、3学年とも市の平均より低い状況である。



(2) これまでの学校の取組状況
学級活動や行事の取組の充実を図っている。

今年度の目標

他者との関わりや豊かな体験を通して、自尊感情や自己肯定感を高め、他者に対する優しさを育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

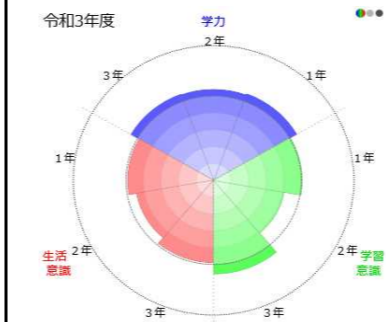
- 個々の違いを受け入れ、差別や偏見のない人権尊重の精神を育む。
○自分の体を知り、健康の増進について考える機会を増やすと共に、さらなる体力の向上を目指す。
○生命の大切さを自覚し、性に関する正しい知識を身につけ、適切な意志決定や行動選択をとることができる力を育む。
●伝え合うことで自分の考えを深化させる力
体験的な活動のねらいを道徳科の時間と関連付け、主体的に考え、多面的・多角的に議論する道徳科の授業を展開する。
●道徳教育の中心となる道徳の授業を充実させるために学習教材を吟味する。
●授業の成果を家庭や地域に公開したり、声をいただくことで、指導に生かす。
○個々の違いを受け入れ、差別や偏見のない人権尊重の精神を育む。
○自分の体を知り、健康の増進について考える機会を増やすと共に、さらなる体力の向上を目指す。
○生命の大切さを自覚し、性に関する正しい知識を身につけ、適切な意志決定や行動選択をとることができる力を育む。
●伝え合うことで自分の考えを深化させる力
体験的な活動のねらいを道徳科の時間と関連付け、主体的に考え、多面的・多角的に議論する道徳科の授業を展開する。
●道徳教育の中心となる道徳の授業を充実させるために学習教材を吟味する。
●授業の成果を家庭や地域に公開したり、声をいただくことで、指導に生かす。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育), 具体的取組 (①誰もが楽しみながら運動に参加できるように保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会を生徒が主体になって運営できるようにする。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
新体力テストの結果では、全国・全市の平均値より低い項目が多い。運動部への加入率が高く、どの部活動も体力の向上に大きく貢献しているが、運動部と文化部所属者・未加入者との体力差が大きい。
幼少期からスポーツクラブに所属し、運動に接する機会は比較的多い傾向にある。家庭の健康に関する意識は高いが、通塾により帰宅時間が遅くなり、夕食の栄養バランスがしっかりとれていない生徒が多いようである。朝食摂取率は高い傾向にある。



(2) これまでの学校の取組状況
自らが安全な生活・健康を保持、増進する態度の視点で捉えたと、おおむね良好な状況であり、学校環境からも良好である。

今年度の目標

○自分の体を知り、健康の増進について考える機会を増やすと共に、さらなる体力の向上を目指す。
○生命の大切さを自覚し、性に関する正しい知識を身につけ、適切な意志決定や行動選択をとることができる力を育む

目標を実現するための具体的行動プラン

- 《体育科・保健体育科での取組》《他教科での取組》
・保健体育科では、体づくり運動の領域において巧みな動きを高めるための運動と動きを持続する能力を高める運動に重点的に取り組む。毎回の授業においてランニング・トレーニングを継続して行い、体力・筋力を高める。
・社会では、公民分野の社会保障や環境、公害の学習を通して、健康について考える。
・理科では、自分の身体やその健康に関することについて理解を深める。
・家庭科では、食育との関連を図り、自分の食事についての理解を深める。
・道徳の時間においては、「食教育」や「生きる力」について考え、相対的に健康や生涯体育への関心を深める。
・体育祭では、体育の授業で培った能力を活用し、集団での運動に対する意識を高める。また、体育祭を企画・運営することで、主体的に運動に関わる能力を育てる。
《体育科・保健体育科での取組》《他教科での取組》
・保健体育科では、体づくり運動の領域において巧みな動きを高めるための運動と動きを持続する能力を高める運動に重点的に取り組む。毎回の授業においてランニング・トレーニングを継続して行い、体力・筋力を高める。
・社会では、公民分野の社会保障や環境、公害の学習を通して、健康について考える。
・理科では、自分の身体やその健康に関することについて理解を深める。
・家庭科では、食育との関連を図り、自分の食事についての理解を深める。
・道徳の時間においては、「食教育」や「生きる力」について考え、相対的に健康や生涯体育への関心を深める。
・球技大会を実施し、仲間と共に協力しながら運動をする喜びを味わう。
・横浜の時間では、キャリア教育との関連を図り、働くことと健康の密接な関係の理解を深める。